



カタログの操作

この章は、次の項で構成されています。

- [カタログ管理について, 1 ページ](#)
- [カタログの整理, 2 ページ](#)
- [詳細カタログの公開について, 3 ページ](#)
- [カタログの作成, 3 ページ](#)
- [カタログの編集, 9 ページ](#)

カタログ管理について

事前定義されたカタログ項目を使用して仮想マシン (VM) のセルフプロビジョニングができます。システム管理者またはエンドユーザがカタログを作成できます。カタログは、VM をバインドするクラウドの名前やグループの名前などのパラメータを定義します。

次のフォルダがデフォルトで使用可能になっています。編集や削除はできません。

- 標準 (Standard)
- 詳細設定 (Advanced)
- [サービスコンテナ (Service Container)]
- ベア メタル

カタログ管理に役立つものとして、Cisco UCS Director ではフォルダ内の類似カタログをグループ化できます。カタログを作成するとき、前に作成したフォルダに追加するか、新しいフォルダを作成するかを選択できます。フォルダはカタログが含まれている場合にのみシステムに表示されます。

[カタログ (Catalog)] ページの [フォルダの管理 (Manage Folder)] オプションでは、次のタスクを実行できます。

- フォルダの編集：ユーザが作成したフォルダの名前またはすべてのフォルダのフォルダアイコンを変更します。デフォルト フォルダの名前は変更できません。
- フォルダの削除：Cisco UCS Director からフォルダを削除します。このフォルダにカタログが含まれていると、これらのカタログはカタログ タイプに基づいてデフォルトで使用可能なフォルダに自動的に移動されます。
デフォルト フォルダは削除できません。
- フォルダのリストの並び替え：フォルダが[カタログ (Catalog)]ページに表示される順序を変更します。デフォルトでは、フォルダがアルファベット順に表示されます。



重要 Cisco UCS Director を最新バージョンにアップグレードした場合は、以前のバージョンで作成されたすべてのカタログはカタログ タイプに基づいて、使用可能なフォルダにデフォルトでグループ化されます。

デフォルトでは、カタログがタイル ビュー形式で表示されます。



(注) [カタログ (Catalogs)] オプションをメニュー バーに配置すると、カタログ関連のすべてのオプションに簡単にアクセスできます。インターフェイスの右上にあるユーザ名をクリックし、[ユーザ情報 (User Information)] ダイアログボックスの[カタログ (Catalogs)] タブを選択し、[カタログの有効化 (Enable Catalogs)] チェックボックスをオンにします。

カタログの整理

Self-Service Portalでは、フォルダ内のカタログが名前別に整理されます。カタログ タイプ用にデフォルト フォルダのセットが自動的に作成され、アルファベット順に並び替えられます。ただし、これらのデフォルトフォルダを使用する必要はありません。カタログを作成するときには、デフォルトのフォルダに配置することも、自分で選択した名前のカスタム フォルダに配置することも可能です。たとえば、標準カタログを作成して VM 用の Windows 2012 オペレーティング システムをプロビジョニングする場合、Cisco UCS Director にカタログを標準フォルダに配置させることも、VM-Windows2012OS のようにオペレーティング システムを示す名前を付けたカスタムフォルダを作成することもできます。

Cisco UCS Director で管理者により作成されたカタログ フォルダは Self-Service Portal に表示されず。

[カタログ (Catalog)] ペイン内では [上へ移動 (Move Up)] および [下へ移動 (Move Down)] アイコンを使用してカタログ フォルダの整理方法を変更できます。



- (注) また [フォルダの管理 (Manage Folder)] アイコンを使用してフォルダを選択し、既存フォルダ間で移動することもできます。
- Cisco UCS Director 内でカタログを作成する場合、管理者はそのカタログを表示できるユーザグループまたは特定のユーザを指定できます。選択されたグループのユーザには、適切なカタログが表示されます。

詳細カタログの公開について

高度なカタログタイプを選択すると、ワークフローカタログをプロビジョニングできます。サービスリクエストの間、エンドユーザはこれらのカタログを使ってワークフローを実行できます。高度なカタログ項目は、グループ名やワークフローなどのパラメータを定義することにより作成します。

カタログの作成

手順

- ステップ 1** メニューバーで、[カタログ (Catalog)] をクリックします。
- ステップ 2** [追加 (Add)] (+) をクリックします。
- ステップ 3** [カタログの追加 (Catalog Add)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name)]	説明
[カタログタイプ (Catalog Type)] ドロップダウンメニュー	次のリストから値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [標準 (Standard)] : このカタログのタイプは一般的なサービスリクエスト (汎用 VM のプロビジョニング) に使用されます。 • [詳細 (Advanced)] : このカタログのタイプはワークフロー実行に使用され、 (このワークフローは) 呼び出すことができエンドユーザが実行することもできます。 • [サービスコンテナ (Service Container)] : このカタログのタイプはアプリケーションコンテナの VM プロビジョニングに使用されます。

- ステップ 4** [送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5** [基本情報 (Basic Information pane)] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name)]	説明
[カタログ名 (Catalog Name)] フィールド	カタログの名前。 (注) カatalogを作成した後では、名前は変更できません。
[カタログの説明 (Catalog Description)] フィールド	カタログの説明。
[カタログタイプ (Catalog Type)] ドロップダウン リスト	これは前の手順で事前に選択されています。
[カタログアイコン (Catalog Icon)] ドロップダウンリスト	このカタログに関連付けるイメージのアイコンをリストから選択します。このアイコンは、このカタログを使用してサービス リクエストを作成するときに表示されます。
[クラウド名 (Cloud Name)] ドロップダウン リスト	VM プロビジョニング用のイメージがあるクラウドを選択します。
[イメージ (Image)] ドロップダウン リスト	このカタログを使用してVMをプロビジョニングするとき使用するイメージのタイプ (イメージを構成する Windows ファイル、Linux ファイル、およびその他のファイルなどの既存のテンプレート) を選択します。
[フォルダの選択 (Select Folder)] ドロップダウン リスト	カタログのフォルダを選択します。

ステップ 6 [Next] をクリックします。

ステップ 7 [Applications Details (アプリケーションの詳細)] ペインで、次のフィールドを編集します。

[名前 (Name)]	説明
[カテゴリ (Category)] ドロップダウン リスト	VDC カテゴリを選択します。
[オーバーライド (Override)] チェックボックス	サービス リクエストを使用した VM のプロビジョニング時に、選択したカテゴリをエンドユーザーがオーバーライドできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。
[サポートの問い合わせ先の電子メールアドレス (Support Contact Email Address)] フィールド	このカタログ項目を使用してサービス リクエストが作成されたときに通知が送信される問い合わせ先の電子メールアドレス。

[名前 (Name)]	説明
[OSの指定 (Specify OS)] ドロップダウン リスト	<p>VMのプロビジョニング時に、VMにインストールされる OS のタイプを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>
[他のOSの指定 (Specify Other OS)] フィールド	<p>[OS の指定 (Specify OS)] リストにない OS を指定します。</p> <p>(注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>
[アプリケーションの指定 (Specify Applications)] チェックボックス リスト	<p>[項目の選択 (Select Items)] ダイアログボックスで、適切なチェックボックスをオンにしてアプリケーションを指定します。これらのアプリケーションはプロビジョニング中にVMにインストールされます。</p> <p>(注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>
[他のアプリケーションの指定 (Specify Other Applications)] フィールド	<p>[項目の選択 (Select Items)] ダイアログボックスにないアプリケーションを指定します。</p> <p>(注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>
[アプリケーションコード (Application Code)] フィールド	<p>VM名に使用するアプリケーションコードを指定します。</p> <p>アプリケーション コードは1～4文字です (例: W2K3、DB、WS)。VM名のシステムポリシーでアプリケーションコードを使用するには、変数 <code>\${APPCODE}</code> を使用します。</p> <p>たとえば VM 名のテンプレートが <code>vm-\${GROUP_NAME}-\${APPCODE}</code> の場合、システムポリシーを使用してプロビジョニングされた VM の名前は <code>vm-groupname-W2K3</code> になります。</p> <p>(注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>

ステップ 8 [Next] をクリックします。

ステップ 9 [ユーザクレデンシャル (User Credentials)] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name)]	説明
[クレデンシャルのオプション (Credential Options)] ドロップダウンリスト	ユーザに対し、VM アクセス クレデンシャル (共有) の取得を許可するか、または禁止するかを選択します。
[ユーザID (User ID)] フィールド	ユーザ ID。 (注) このフィールドは、[クレデンシャル オプション (Credential Options)] で選択が行われた場合に限り使用できます。
[パスワード (Password)] フィールド	ユーザのパスワード。 (注) このフィールドは、[クレデンシャル オプション (Credential Options)] で選択が行われた場合に限り使用できます。

ステップ 10 [カスタマイズ (Customization)] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name)]	説明
[自動ゲストカスタマイズの有効化 (Automatic Guest Customization Enable)] チェックボックス	自動ゲスト カスタマイズを有効にするには、チェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにしない場合、Cisco UCS Director では DNS、ネットワーク、およびゲスト OS プロパティが設定されません。
[プロビジョニング後のカスタムアクション (Post Provisioning Custom Actions)] チェックボックス	VM のプロビジョニング後に実行されるオーケストレーション ワークフローを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[ワークフロー (Workflow)] ドロップダウンリスト	プロビジョニング用に定義されたワークフローを選択します。 (注) このオプションは、[プロビジョニング後のカスタムアクション (Post Provisioning Custom Actions)] がオンの場合にのみ表示されます。
[仮想ストレージカタログの有効化 (Virtual Storage Catalog Enable)] チェックボックス	仮想ストレージ カタログからストレージ エンティティを選択するには、チェックボックスをオンにします。

[名前 (Name)]	説明
[仮想ストレージカタログ (Virtual Storage Catalog)] ドロップダウン リスト	カタログからストレージ エントリを選択します。 (注) このオプションは、[仮想ストレージカタログの有効化 (Virtual Storage Catalog Enable)] チェックボックスにマークが付いていると表示されます。
[コスト計算 (Cost Computation)]	
[請求期間 (Charge Duration)] ドロップダウン リスト	[毎時 (Hourly)] または [毎月 (Monthly)] を選択します。
[アクティブなVMアプリケーションのコスト (Active VM Application Cost)] フィールド	テンプレートに含まれているアプリケーションのコスト。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[非アクティブなVMアプリケーションコスト (Inactive VM Application Cost)] フィールド	時間あたり、または月あたりに非アクティブなVM のカタログにかかるコスト。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
VM ライフサイクル設定	
[リース時間 (Lease Time)] チェック ボックス	リース時間 (日、時間単位) を定義するには、チェックボックスをオンにします。
[日 (Day)] フィールド	日数を指定します。 このフィールドは、[リース時間 (Lease Time)] チェックボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[時間 (Hours)] フィールド	時間数を指定します。 このフィールドは、[リース時間 (Lease Time)] チェックボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[エンド ユーザのリース設定を隠す (Hide end user lease configuration)] チェックボックス	サービスのエンドユーザがVM のリース時間を設定しないようにするには、チェックボックスをオンにします。
[エンド ユーザの VM プロビジョニングを後で隠す (Hide end user VM provision later)] チェックボックス	サービス エンドユーザが後から VM をプロビジョニングしないようにするには、チェックボックスをオンにします。

ステップ 11 [Next] をクリックします。

ステップ 12 [VMアクセス (VM Access)] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name)]	説明
[Webアクセス設定 (Web Access Configuration)]	
[有効 (Enable)] チェック ボックス	VM への Web アクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトではこのチェックボックスのマークが外れており、VM への Web アクセスは無効になっています。
[URL] フィールド	VM の URL。 (注) このオプションは、[Webアクセス設定 (Web Access Configuration)] がオンの場合に表示されます。
[ラベル (Label)] フィールド	この URL に定義されたラベル (注) このオプションは、[Webアクセス設定 (Web Access Configuration)] がオンの場合に表示されます。
[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration)]	
[有効 (Enable)] チェック ボックス	VM へのリモートアクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトではこのチェックボックスのマークが外れており、VM へのリモートデスクトップ接続は無効になっています。
[サーバ (Server)] フィールド	サーバのリモート アクセス用 IP アドレス。 (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration)] がオンの場合に表示されます。
[ポート (Port)] フィールド	サーバのリモート アクセス用ポート番号。 (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration)] がオンの場合に表示されます。

[名前 (Name)]	説明
[ラベル (Label)]フィールド	このリモート アクセス用に定義されたラベル (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration)]がオンの場合に表示されます。
[VMRCコンソールの設定 (VMRC Console Configuration)]	
[有効 (Enable)]チェック ボックス	VMRC コンソールが VM にアクセスできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトではこのチェックボックスのマークが外れており、VM への VMRC コンソール アクセスは無効になっています。

- ステップ 13 [Next] をクリックします。
- ステップ 14 [サマリー (Summary)] ページのカタログ情報を確認します。
- ステップ 15 [送信 (Submit)] をクリックします。

カタログの編集

手順

- ステップ 1 メニューバーで、[ポリシー (Policies)][カタログ (Catalogs)] > [の順に選択します。
- ステップ 2 [カタログ (Catalog)] タブを選択します。
- ステップ 3 編集するカタログ名を選択します。
- ステップ 4 [編集 (Edit)] をクリックします。
- ステップ 5 [カタログの修正 (Modify Catalog)] ダイアログボックスで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name)]	説明
[基本情報 (Basic Information)] ペイン	
[カタログ名 (Catalog Name)] フィールド	カタログの名前を入力します。 (注) 作成したカタログ名は変更できません。

[名前 (Name)]	説明
[カタログの説明 (Catalog Description)]フィールド	カタログの説明を入力します。
[カタログタイプ (Catalog Type)]ドロップダウンリスト	<p>カタログのタイプ。次のいずれかを設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [標準 (Standard)]: クラウドリストにあるイメージを使用してVMプロビジョニングのためのカタログを作成する場合に使用します。 • [詳細 (Advanced)]: カタログ項目などのオーケストレーションワークフローを公開する場合に使用します。 • [サービスコンテナ (Service Container)]: カタログ項目としてアプリケーションコンテナを公開する場合に使用します。 • [ベアメタルカタログ (Bare Metal Catalog)]: ベアメタルサーバのプロビジョニング用のカタログ作成に使用します。
[カタログアイコン (Catalog Icon)]ドロップダウンリスト	このカタログに関連付けるイメージのアイコンをリストから選択します。このアイコンは、このカタログを使用してサービスリクエストを作成するときに表示されます。
[すべてのグループに適用 (Applied to all groups)]チェックボックス	すべてのグループがこのカタログを使用できるようにするには、このチェックボックスをオンにします。他のグループによる使用を拒否するには、マークを外したままにします。
[サポートの問い合わせ先の電子メールアドレス (Support Contact Email Addresses)]フィールド	サポート連絡先の電子メールアドレスを指定します。
[選択されたグループ (Selected Groups)]チェックボックスリスト	[選択した項目 (Select Items)]ダイアログボックスに含まれているグループのチェックボックスをオンにします。オンにしたグループは、新しいVMをプロビジョニングするときにこのカタログを使用します。

[名前 (Name)]	説明
[エンドユーザへ公開 (Publish to end users)] チェックボックス	デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。このカタログがエンドユーザに表示されないようにするには、このチェックボックスのマークを外します。このチェックボックスのマークを外さなかった場合、このカタログはシステムのエンドユーザに表示されます。
[クラウド名 (CloudName)]ドロップダウンリスト	VM プロビジョニング用のイメージがあるクラウドを選択します。
[ISO マウント用の新しいVMのプロビジョニング (Provision new VM for ISO mounting)] チェックボックス	選択されたイメージからVMを複製するには、このチェックボックスにオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合、空のVMが作成されます。
[イメージ (Image)]フィールド	<p>このカタログを使用してVMをプロビジョニングするときに使用するイメージのタイプ（イメージを構成する Windows ファイル、Linux ファイル、およびその他のファイルなどの既存のテンプレート）を選択します。</p> <p>グループ管理者である場合や、カタログを作成する権限のあるグループのエンドユーザである場合は、属しているグループに割り当てられたイメージがこのフィールドに表示されます。</p> <p>MSP 管理者である場合は、ご自身の MSP 組織と MSP 組織内のグループに割り当てられたイメージがこのフィールドに表示されます。</p>
[Windows ライセンスプール (Windows License Pool)]フィールド	<p>Windows ライセンスを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、Windows イメージが選択されて場合にのみ表示されます。このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>

[名前 (Name)]	説明
[単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニング (Provision all disks in single datastore)] チェックボックス	<p>単一データストアのすべてのディスクをプロビジョニングするには、このチェックボックスをオンにします。ストレージポリシーで各ディスクに対して設定されているデータストアを使用することも選択できます。</p> <p>(注) このオプションは、選択されたテンプレートに複数のディスクがある場合に表示されます。このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。</p>
[サービスコンテナテンプレート名 (Service Container Template Name)] ドロップダウン リスト	<p>リストからテンプレートを選択します。</p> <p>(注) このオプションは、カタログタイプがサービス コンテナである場合に表示されます。</p>
[フォルダの選択 (Select Folder)] ドロップダウン リスト	<p>このカタログの作成先となるフォルダを選択します。</p> <p>(注) ドロップダウン リストには、デフォルトで使用可能なフォルダの名前が含まれます。使用可能なフォルダを選択するか、または [+] アイコンをクリックして新しいフォルダを作成します。</p> <p>新しいフォルダを作成するには、[新しいフォルダの追加 (Add New Folder)] ダイアログボックスで、フォルダ名を指定し、そのフォルダのアイコンを選択します。</p>

ステップ 6 [Next] をクリックします。

ステップ 7 [Applications Details (アプリケーションの詳細)] ペインで、次のフィールドを編集します。

[名前 (Name)]	説明
[カテゴリ (Category)] ドロップダウン リスト	VDC カテゴリを選択します。
[オーバーライド (Override)] チェックボックス	サービス リクエストを使用した VM のプロビジョニング時に、選択したカテゴリをエンドユーザーがオーバーライドできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。

[名前 (Name)]	説明
[サポートの問い合わせ先の電子メールアドレス (Support Contact Email Address)] フィールド	このカタログ項目を使用してサービスリクエストが作成されたときに通知が送信される問い合わせ先の電子メールアドレス。
[OSの指定 (Specify OS)] ドロップダウン リスト	VMのプロビジョニング時に、VMにインストールされる OS のタイプを選択します。 (注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。
[他のOSの指定 (Specify Other OS)] フィールド	[OS の指定 (Specify OS)] リストにない OS を指定します。 (注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。
[アプリケーションの指定 (Specify Applications)] チェックボックス リスト	[項目の選択 (Select Items)] ダイアログボックスで、適切なチェックボックスをオンにしてアプリケーションを指定します。これらのアプリケーションはプロビジョニング中にVMにインストールされます。 (注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。
[他のアプリケーションの指定 (Specify Other Applications)] フィールド	[項目の選択 (Select Items)] ダイアログボックスにないアプリケーションを指定します。 (注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。
[アプリケーションコード (Application Code)] フィールド	VM名に使用するアプリケーションコードを指定します。 アプリケーション コードは1～4文字です (例: W2K3、DB、WS)。VM名のシステムポリシーでアプリケーションコードを使用するには、変数 <code>\${APPCODE}</code> を使用します。 たとえば VM 名のテンプレートが <code>vm-<code>{GROUP_NAME}</code>-<code>{APPCODE}</code></code> の場合、システムポリシーを使用してプロビジョニングされた VM の名前は <code>vm-groupname-W2K3</code> になります。 (注) このオプションは、RHEV KVM コネクタではサポートされません。

ステップ 8 [Next] をクリックします。

ステップ 9 [ユーザクレデンシャル (User Credentials)] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name)]	説明
[クレデンシャルのオプション (Credential Options)] ドロップダウン リスト	ユーザに対し、VM アクセス クレデンシャル (共有) の取得を許可するか、または禁止するかを選択します。
[ユーザID (User ID)] フィールド	ユーザ ID。 (注) このフィールドは、[クレデンシャル オプション (Credential Options)] で選択が行われた場合に限り使用できます。
[パスワード (Password)] フィールド	ユーザのパスワード。 (注) このフィールドは、[クレデンシャル オプション (Credential Options)] で選択が行われた場合に限り使用できます。

ステップ 10 [Next] をクリックします。

ステップ 11 [カスタマイズ (Customization)] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name)]	説明
[自動ゲストカスタマイズの有効化 (Automatic Guest Customization Enable)] チェックボックス	自動ゲスト カスタマイズを有効にするには、チェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにしない場合、Cisco UCS Director では DNS、ネットワーク、およびゲスト OS プロパティが設定されません。
[プロビジョニング後のカスタムアクション (Post Provisioning Custom Actions)] チェックボックス	VM のプロビジョニング後に実行されるオーケストレーション ワークフローを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[ワークフロー (Workflow)] ドロップダウン リスト	プロビジョニング用に定義されたワークフローを選択します。 (注) このオプションは、[プロビジョニング後のカスタムアクション (Post Provisioning Custom Actions)] がオンの場合にのみ表示されます。

[名前 (Name)]	説明
[仮想ストレージカタログの有効化 (Virtual Storage Catalog Enable)] チェックボックス	仮想ストレージカタログからストレージエンティティを選択するには、チェックボックスをオンにします。
[仮想ストレージカタログ (Virtual Storage Catalog)] ドロップダウン リスト	カタログからストレージエントリを選択します。 (注) このオプションは、[仮想ストレージカタログの有効化 (Virtual Storage Catalog Enable)] チェックボックスにマークが付いていると表示されます。
[コスト計算 (Cost Computation)]	
[請求期間 (Charge Duration)] ドロップダウン リスト	[毎時 (Hourly)] または [毎月 (Monthly)] を選択します。
[アクティブなVMアプリケーションのコスト (Active VM Application Cost)] フィールド	テンプレートに含まれているアプリケーションのコスト。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
[非アクティブなVMアプリケーションコスト (Inactive VM Application Cost)] フィールド	時間あたり、または月あたりに非アクティブなVM のカタログにかかるコスト。 (注) RHEV KVM コネクタではサポートされていません。
VM ライフサイクル設定	
[リース時間 (Lease Time)] チェック ボックス	リース時間 (日、時間単位) を定義するには、チェックボックスをオンにします。
[日 (Day)] フィールド	日数を指定します。 このフィールドは、[リース時間 (Lease Time)] チェックボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[時間 (Hours)] フィールド	時間数を指定します。 このフィールドは、[リース時間 (Lease Time)] チェックボックスをオンにした場合のみ表示されます。
[エンドユーザのリース設定を隠す (Hide end user lease configuration)] チェックボックス	サービスのエンドユーザがVM のリース時間を設定しないようにするには、チェックボックスをオンにします。

[名前 (Name)]	説明
[エンドユーザの VM プロビジョニングを後で隠す (Hide end user VM provision later)] チェックボックス	サービス エンドユーザが後から VM をプロビジョニングしないようにするには、チェックボックスをオンにします。

ステップ 12 [Next] をクリックします。

ステップ 13 [VMアクセス (VM Access)] ペインで、次のフィールドに値を入力します。

[名前 (Name)]	説明
[Webアクセス設定 (Web Access Configuration)]	
[有効 (Enable)] チェック ボックス	VM への Web アクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトではこのチェックボックスのマークが外れており、VM への Web アクセスは無効になっています。
[URL] フィールド	VM の URL。 (注) このオプションは、[Webアクセス設定 (Web Access Configuration)] がオンの場合に表示されます。
[ラベル (Label)] フィールド	この URL に定義されたラベル (注) このオプションは、[Webアクセス設定 (Web Access Configuration)] がオンの場合に表示されます。
[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration)]	
[有効 (Enable)] チェック ボックス	VM へのリモートアクセスを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトではこのチェックボックスのマークが外れており、VM へのリモートデスクトップ接続は無効になっています。
[サーバ (Server)] フィールド	サーバのリモート アクセス用 IP アドレス。 (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration)] がオンの場合に表示されます。

[名前 (Name)]	説明
[ポート (Port)] フィールド	サーバのリモート アクセス用ポート番号。 (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration)]がオンの場合に表示されます。
[ラベル (Label)] フィールド	このリモート アクセス用に定義されたラベル (注) このオプションは、[リモートデスクトップのアクセス設定 (Remote Desktop Access Configuration)]がオンの場合に表示されます。
[VMRCコンソールの設定 (VMRC Console Configuration)]	
[有効 (Enable)] チェック ボックス	VMRC コンソールがVMにアクセスできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトではこのチェックボックスのマークが外れており、VMへのVMRC コンソールアクセスは無効になっています。

- ステップ 14 [Next] をクリックします。
- ステップ 15 [サマリー (Summary)] ページのカタログ情報を確認します。
- ステップ 16 [送信 (Submit)] をクリックします。

